

帆船日本丸&横浜みなと博物館

* 横浜港のシンボリック存在 *②

帆船日本丸を横浜へ 代船建造と誘致運動

1978 年に航海訓練所が練習帆船代替建造の作業に入ると、横浜では全日本船舶職員協会横浜支部と海洋会横浜支部が日本丸横浜誘致を表明しました。この動きはマスコミに取り上げられ、横浜市民の関心を引き付けました。同時に港のある全国の自治体の関心をも集め、2 月に船橋市、翌年 1 月に神戸市が帆船誘致の要望書を国に出しました。

横浜では 1980 年に県、市、商工会議所、海運、港湾、商船学校、商船大学 OB 団体など 15 団体が参加した帆船日本丸誘致保存促進会を設立しました。その目的は、日本丸を係留保存し、永く偉業を讃えとともに海事思想の普及およびミナト・ヨコハマのイメージアップに寄与するためでした。運輸大臣や航海訓練所長など運輸省関係先に要望書を提出するとともに、署名運動を行いました。署名は最終的に 83 万人に達しました。

日本丸の代船建造が認められると、帆船日本丸誘致の要望は全国 10 都市に広がりましたが、保存計画書を提出したのは横浜、神戸、東京、船橋、清水、豊橋、福岡の 7 都市でした。誘致先選定について、運輸省は広く有識者の意見を聞くため、1983 年に運輸大臣主催の「帆船日本丸の保存および有効利用に関する懇談会」を開き、

- ①永久保存形態
- ②海事思想普及や青少年錬成
- ③管理運営 — などを指針に各都市の計画を比較検討しました。

最終的に残ったのは、横浜のほか、東京と神戸でした。そして 8 月 31 日、懇談会は横浜に日本丸を保存すべき、と結論を出しました。これを受けて同日、運輸大臣は日本丸の保存は横浜市が最も適当とする談話を発表し、横浜誘致が決定しました。

■航海訓練所から横浜市へ引き渡し

管理運営主体となる財団法人帆船日本丸記念財団は、1984 年 10 月に設立されました。同年 6 月 2 日、日本丸は多数の市民に見送られ、大さん橋からハワイへ向け最後の遠洋航海に出航しました。

航海から帰着した日本丸は、新しい日本丸の竣工により用途廃止になりました。9 月 17 日、航海訓練所長と横浜市長との間で引渡書と受領書が交換され、日本丸は横浜市の所有となりました。太平洋の白鳥と称された日本丸が、54 年間に航走した距離は 183 万 km(地球 45.5 周)で養成した船舶職員は約 1 万 1500 人を数えました。1985 年 4 月 7 日、日本丸オープニングセレモニー、翌 9 日待望の一般公開が始まりました。同日、すべての帆をひろげる総帆展帆の第 1 回目が行われ、賑わいに花を添えました。